2023年6月7日（水）
大学基準協会 事例報告会

MEIJO UNIVERSITY

本学の内部質保証について

名城大学　事務局次長
総合企画部・大学教育開発センター事務部長
日本私立大学協会付置　私学高等教育研究所研究員

鶴田　弘樹

本日の内容

1．内部質保証体制の仕組み

2．学修成果測定の取り組み、成果

3．本学の特色ある取り組み

4．大学評価の申請、実地調査等に向けた準備

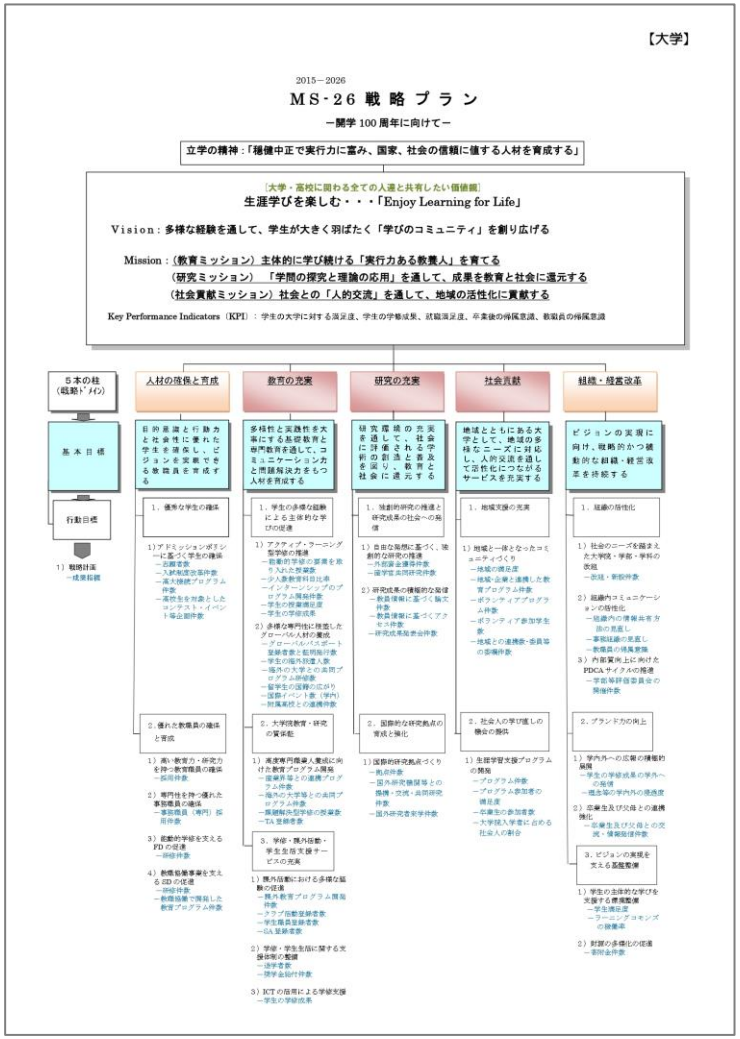
5．今後に向けて

学校法人名城大学の基本情報

設置学校	名城大学、名城大学附属高等学校
所在地	愛知県名古屋市天白区塩釜口１－５０１ 天白キャンパス、八事キャンパス、ナゴヤドーム前キャンパス
立学の精神	穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する
設置研究科 ・学部	法学研究科　法学部、経営学研究科　経営学部、経済学研究科　経済学部、理工学研究科　理工学部、農学研究科　農学部、薬学研究科　薬学部、都市情報学研究科　都市情報学部、人間学研究科　人間学部、外国語学部、総合学術研究科、 情報工学部(2022年度開設)
学生数 （2023.5.1現在）	大学　（大学院）621名　（学部）14,979名 高校　1,956名

１．内部質保証体制の仕組み

「Meijo Strategy-2026」（通称：MS-26戦略プラン）

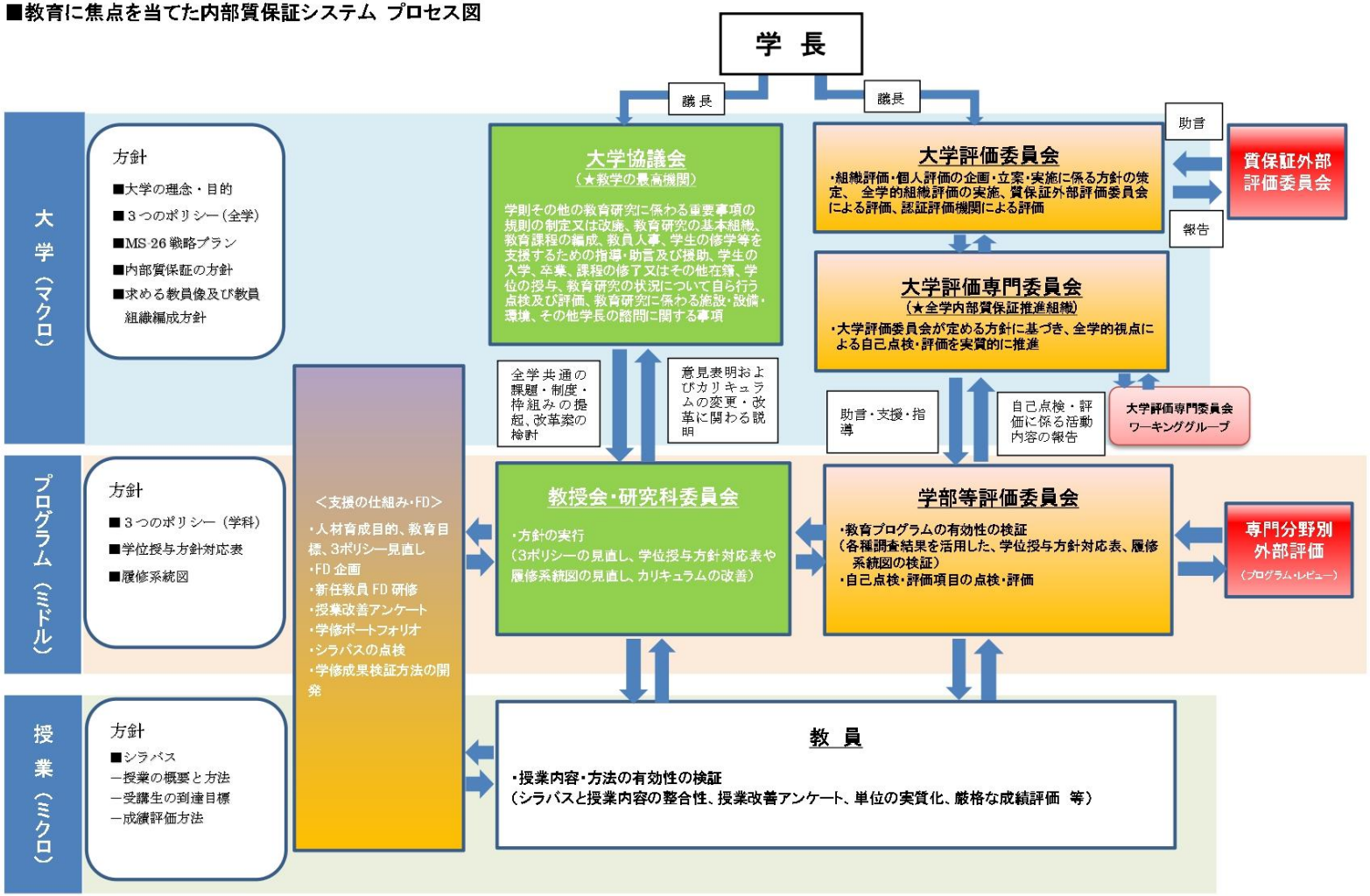


■　本学では、開学100周年を迎える2026年をマイルストーンとする戦略プラン「Meijo Strategy-2026（MS-26）」を策定しており、**「多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく『学びのコミュニティ』を創り広げる」**というビジョンの下、人材の確保と育成、教育の充実、研究の充実、社会貢献、組織・経営改革といった戦略ドメインに基づき事業を実行している。

■　今回の第３期認証評価受審を見据え、**これまで併存していた「MS-26戦略プラン」と「内部質保証に係る自己点検・評価」の2つのPDCA サイクルを一体化させることで内部質保証体制を一層充実させ、PDCA サイクルの質を大きく向上させることに取り組んでいる**ことが本学の内部質保証システムの大きな特徴である。

内部質保証システム

■教育に焦点を当てた内部質保証システム プロセス図



内部質保証を推進する組織

■大学評価委員会

【役割】

全学的な内部質保証に責任を負う組織として、大学評価の企画・立案・実施に係る方針を決定する。

具体的には、各部署から提出される**「事業計画書（部署版）」**や**「自己点検・評価報告書（部署版）」を点検・評価**し、それらを踏まえた**「自己点検・評価報告書（全学版）」の作成**、**点検・評価結果を踏まえた全学レベルでの課題の抽出**等、本学の教育研究活動の有効性の検証及び改善課題の明確化とそれらの改善方針を決定する。

【構成メンバー】

学長（委員長）、副学長、学部長、研究科長、各センター長等、事務局長

内部質保証を推進する組織

■大学評価専門委員会

【役割】

大学評価委員会の下に設置され、大学評価委員会が定める方針に基づき、全学的視点による自己点検・評価を実質的に推進するための自己点検・評価活動や教育課程の編成に関する全学的な方針等を企画・立案する。

具体的には、学部・研究科の教育改善に役立つ「ダッシュボード」等をはじめとするIRデータの提供といった学部・研究科への支援や、IRデータを用いて全学的な視点からカリキュラムの点検・評価が挙げられる。

【構成メンバー】

学長（委員長）、副学長、学部長、研究科長、事務局長、その他学長が必要と認める者

■大学評価専門委員会ワーキンググループ

【役割】

本学の一連の内部質保証を機能させるための全体設計や、各部署に気づきを与えられるIRデータの精査等の具体的な企画を行う。

【構成メンバー】

副学長、その他学長が必要と認める者

内部質保証を推進する組織

■学部等評価委員会

【役割】

・各学部・研究科において毎年度策定する「事業計画書（部署版）」や「自己点検・評価報告書（部署版）」に基づく点検・評価

・ダッシュボード等のIRデータに基づくカリキュラムの自己点検・評価

・外部有識者による点検・評価の実施

【構成メンバー】

学部長又は研究科長、学部等から選出の委員（若干名）、学外有識者

内部質保証を推進する組織

■質保証外部評価委員会

【役割】

副学長以外は外部有識者により構成され、主に「内部質保証に関わる自己点検・評価報告書（＝大学基準協会様式の自己点検・評価報告書）」を基に、本学が行う内部質保証の取り組みに対する点検・評価を行う。

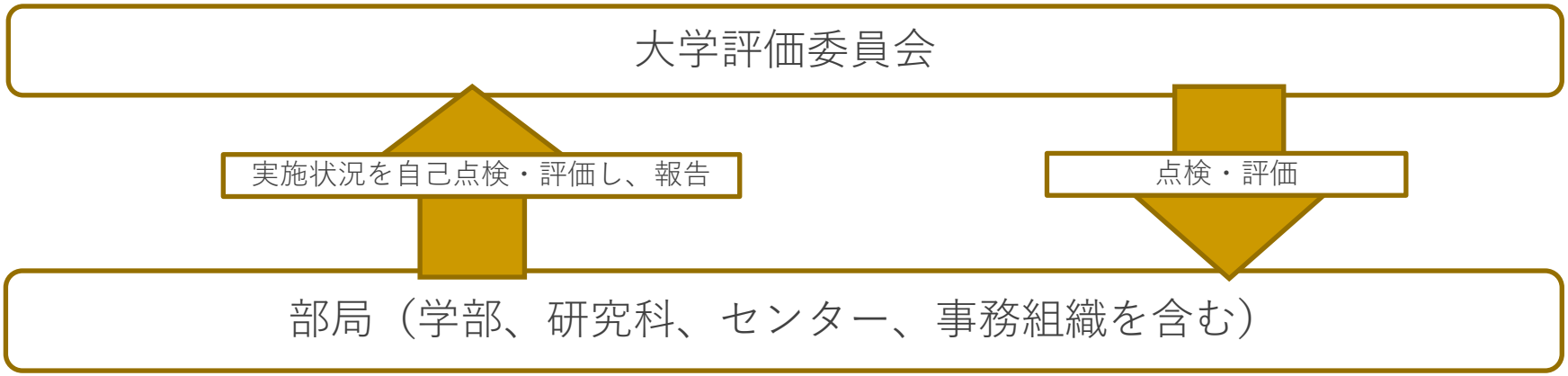
【構成メンバー】

副学長、学外有識者（高等教育の専門家）

全学レベルの点検・評価

■ 大学評価委員会による自己点検・評価

各部局から提出される「事業計画書（部署版）」「自己点検・評価報告書(部署版)」に基づき、年度計画の実施状況について全学的な観点から自己点検・評価を行った上で、「ＭＳ自己点検・評価報告書」、「内部質保証に係る自己点検・評価報告書」を発刊し、必要な改善を行う。



年度計画の実施状況（達成度）を4段階で評価
A：目標を上回る取り組みをし、改善した
B：おおむね目標通りの取り組みをし、改善した
C：取り組みはしたが、改善していない
D：十分に取り組めず、改善していない

・各部局からの実施状況・達成状況報告を基に2種類の「自己点検・評価報告書」を作成
・全学的に改善すべき課題を抽出

事業計画書（部署版）

前年度の3月に「大学評価委員会」が、すべての部局の「事業計画書（部署版）」の点検・評価を行う

■ 2022年度事業計画書

Ⅰ．年度重点目標

Ⅱ．質保証外部評価委員会（名城大学）からの指摘事項への改善計画

指摘事項等	計画等

Ⅲ．認証評価時における大学基準協会からの指摘事項等の改善計画

指摘事項等：	計画等

Ⅳ．事業計画

ドメイン	項目	No.	計画内容（具体的取り組み）	達成度指標	担当委員会等				
人材の確保と育成／学生		1	人材1-1)						
		2	人材1-2)						
		3	人材1-1)					基準5	
		4	人材1-1)					基準5	
		5	人材1-2)					基準5	
人材の確保と育成／教員・教員組織		6	人材2-2)						
		7						基準6	
		8						基準6	
		9						基準6	
		10							

各部局において、毎年度、独自の事業計画を立てつつ、大学基準に対しても計画内容等を策定することで、「MS-26戦略プラン」と「内部質保証」の２つのPDCAサイクルを一元的に回している。

自己点検・評価報告書（部署版）

2022年度

事業計画書		自己点検評価報告書（兼 事業報告書）	
Ⅰ. 年度重点目標		達成度(A～D)	A. 目標を上回る取り組みをし、改善した ・ B. おおむね目標通りの取り組みをし、改善した C. 取り組みはしたが、改善していない ・ D. 十分に取り組めず、改善していない
Ⅱ. 第三者外部評価委員会（名城大学）からの指摘事項		Ⅱに対する対応状況	対応済み ・ 対応中 ・ その他
Ⅲ. 第三者外部評価委員会（名城大学）からの指摘事項への改善計画		Ⅱの対応状況の詳細	
Ⅳ. 認証評価時における大学基準協会からの指摘事項等		Ⅳに対する対応状況	対応済み ・ 対応中 ・ その他
Ⅴ. 認証評価時における大学基準協会からの指摘事項等の改善計画		Ⅳの対応状況の詳細	
Ⅵ. 事業計画			

ドメイン	項目	No.	計画内容（具体的取り組み）	達成度指標	担当委員会等	2021年度予算執行見込み額	2022年度事業費（予定額）	内部質保証関連	中期事業計画関連	評価	①取組状況(新規取組含む)、②改善した事項	指標の達成度	次年度に向けた課題及び改善事項	根拠資料
人材の確保と育成／学生		1												
		2												
		3						基準5						
		4						基準5						
		5						基準5						
人材の確保と育成／教員・教員組織		6												
		7						基準6						
		8						基準6						
		9												

・各学部・研究科・センター等から、毎年度末に「自己点検・評価報告書（部署版）」が提出される。
・「大学評価委員会」が、すべての部局の「自己点検・報告書（部署版）」等について、点検・評価を行う。

（各部署）内部質保証関連項目に係るチェックリスト

基準４　教育課程・学習成果

点検・評価項目	評価の視点	点検・評価項目に対する現状説明 （※学部・研究科・センター記入欄）	自己評価 （対応している場合☑を記入）
①授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表をしていますか。		□
②授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等		□
	○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針は適切に連関していますか。		□

・自己点検・評価報告書（部署版）の作成に加え、大学基準に対しての対応状況について現状説明を求める「内部質保証関連項目に係るチェックリスト」の提出も依頼している。
・本チェックリストを大学評価委員会が点検することで、事業の取組状況に加えて、各部署の大学基準の達成状況も点検している。

（各学部等）学部等評価委員会における外部評価の活用

■ 学部等評価委員会

・事業計画書（部署版）及び自己点検・評価報告書（部署版）の作成とそれに基づく点検・評価

・全学部及び研究科において、自己点検・評価だけでなく、毎年度外部有識者による点検・評価を実施

・「理念・目的」及び「教育課程・学修成果」については、毎年度の点検・評価の共通必須項目としている（その他、各部局の判断で任意項目を設定）

・ただ点検・評価を受けるだけでなく、外部評価委員からの意見・提言を受けた今後に向けた改善計画も明記。

・各部局の点検・評価結果は大学評価委員会で集約し、特徴的な指摘事項等を共有している。

（全学）MSドメインごとの自己評価結果

Ⅲ　MSドメインごとの自己評価結果

評価 A. 目標を上回る取り組みをし改善した　B. おおむね目標通りの取り組みをし改善した　C. 取り組みはしたが改善していない　D. 十分に取り組めず改善していない

MSドメイン別事業		評価 A		評価 B		評価 C		評価 D		判定不可		総計
		事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	
大学	01-1:人材の確保と育成／学生	30	27%	51	45%	10	9%	11	10%	11	10%	113
	01-2:人材の確保と育成／教職員	30	32%	51	54%	9	9%	5	5%	0	0%	95
	02-1:教育の充実／学びの促進	44	22%	121	61%	26	13%	6	3%	3	2%	200
	02-2:教育の充実／大学院	21	19%	63	57%	23	21%	4	4%	0	0%	111
	02-3:教育の充実／学生支援	17	25%	35	51%	5	7%	7	10%	5	7%	69
	03-1:研究の充実／研究推進	7	18%	23	58%	9	23%	1	3%	0	0%	40
	03-2:研究の充実／国際的研究拠点	4	25%	6	38%	5	31%	1	6%	0	0%	16
	04-1:社会貢献	9	18%	24	48%	9	18%	6	12%	2	4%	50
	05-1:組織・経営改革／組織の活性化	13	33%	24	60%	1	3%	1	3%	1	3%	40
	05-2:組織・経営改革／ブランド力の向上	4	17%	9	39%	6	26%	4	17%	0	0%	23
	05-3:組織・経営改革／基盤整備	14	29%	22	46%	7	15%	4	8%	1	2%	48
高校	01:人材の確保と育成	1	20%	3	60%	1	20%	0	0%	0	0%	5
	02:教育の充実	4	80%	1	20%	0	0%	0	0%	0	0%	5
	03:社会貢献	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2
	04:組織・体制整備	0	0%	4	100%	0	0%	0	0%	0	0%	4
	総計	200	24%	437	53%	111	14%	50	6%	23	3%	821

%は四捨五入により合計 100%とならない場合がある。

事業の実施状況（達成度）を集計し、MSドメイン別事業の自己評価を行っている。

（全学）自己点検・評価報告書の発刊・公表

【ＭＳ自己点検・評価報告書】

2021 年度 MS 自己点検・評価報告書

構成：報告書（本資料）・各部署自己点検報告書

Ⅰ はじめに

開学 100 周年を迎える 2026 年を目標年として策定された「MS-26 戦略プラン」の推進にかかり、各部署では毎年度事業進捗状況の自己点検・評価を実施している。2021 年度からは、これまでの「MS-26 戦略プラン」の進捗状況を点検・補完するために、より重点を置く目標達成のための具体的内容を、「中期事業計画」として改めて明確化した。これらのPDCAサイクルを回すことで、2022 年受審予定である第 3 期大学機関評価において、重視される内部質保証体制が一層充実すると考えられる。本報告書は当該年度事業結果の自己点検・評価を「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに取りまとめることで、本学全体の内部質保証体制のチェック機能を担っている。

Ⅱ 本報告書 作成から活用までの流れ

【2 月】各部署は年度当初に策定した事業計画に対し、自己点検・評価を実施し、その結果を報告書として総合企画部に提出。

【2 月】総合企画部にて事業内容を確認。自己評価を参考に、「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに「実績・長所」及び「課題」を取り出とめた。

【3 月～】学長スタッフ会議・大学評価委員会等で本報告書内容を共有することを通じて、改善活動を推進する。

Ⅲ MS ドメインごとの自己評価結果

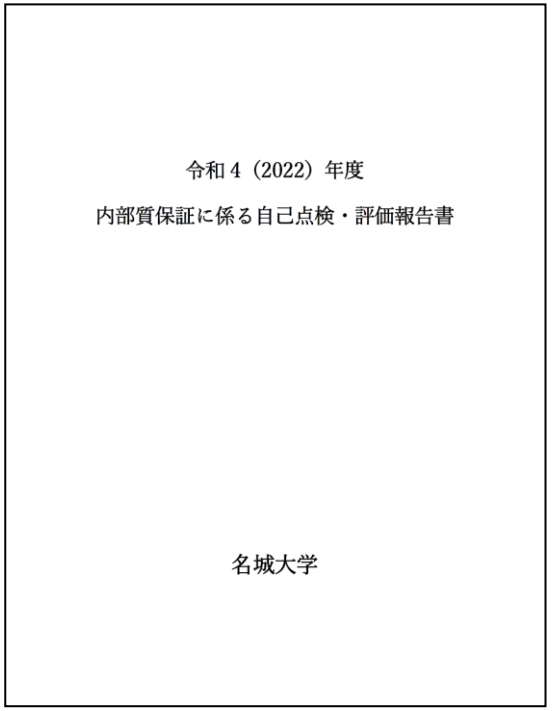
評価 A：目標を上回る成果が挙げられ、改善した　B：改善の効果が期待される成果を挙げた　C：成果は出たが改善していない　D：十分に取り組めず改善していない

MS ドメイン別事業		評価 A		評価 B		評価 C		評価 D		判定不可		総計
		事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	
大学	01-1：人材の確保と育成／学生	30	27%	51	45%	10	9%	11	10%	11	10%	113
	01-2：人材の確保と育成／教職員	30	33%	51	56%	9	9%	5	5%	0	0%	95
	02-1：教育の充実／学士力の保証	44	22%	121	61%	26	13%	6	3%	3	2%	200
	02-2：教育の充実／大学院	21	19%	63	57%	23	21%	4	4%	0	0%	111
	02-3：教育の充実／学生支援	17	25%	35	51%	5	7%	7	10%	5	7%	69
	03-1：研究の充実／研究推進	7	18%	23	58%	9	23%	1	3%	0	0%	40
	03-2：研究の充実／国際的研究拠点	4	25%	6	38%	5	31%	1	6%	0	0%	16
	04-1：社会貢献	9	18%	24	48%	9	18%	6	12%	2	4%	50
	05-1：組織・経営改革／組織の活性化	13	33%	24	60%	1	3%	1	3%	1	3%	40
	05-2：組織・経営改革／ブランド力の向上	4	17%	9	39%	6	26%	4	17%	0	0%	23
	05-3：組織・経営改革／基盤整備	14	29%	22	46%	7	15%	4	8%	1	2%	48
高校	01：人材の確保と育成	1	20%	3	60%	1	20%	0	0%	0	0%	5
	02：教育の充実	4	80%	1	20%	0	0%	0	0%	0	0%	5
	03：社会貢献	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2
	04：組織・体制整備	0	0%	4	100%	0	0%	0	0%	0	0%	4
	総計	200	24%	407	50%	111	14%	50	6%	23	3%	811

※比率は四捨五入により合計が 100%とならない場合がある。

※評価は当年度（令和4年度）コロナウイルス感染拡大により年度末実施事業が中止事況であった。

【内部質保証に係る自己点検・評価報告書】



令和４（2022）年度

内部質保証に係る自己点検・評価報告書

名城大学

各部局からの「自己点検・評価報告書（部署版）」等の提出を踏まえ、MS-26 戦略プランの当該年度の成果を検証する「MS自己点検・評価報告書」と、大学基準協会の報告書に準じた「内部質保証に係る自己点検・評価報告書」を発刊し、大学ウェブサイトにて公表。
https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/valuation/assurance.html

（全学）課題の抽出と改善の実行

■大学評価委員会が、全学の自己点検・評価報告書（「MS自己点検・評価報告書」、「内部質保証に係る自己点検・評価報告書」）を軸にした点検・評価を行い、翌年度に向けた課題を抽出を行う。

■課題対応については、責任部署を定め、着実に改善に繋げている。

（主な実績）

- 学生個々人の成長の可視化を充実させるため、学修ポートフォリオを導入。
- 総合大学の強みを活かした多様な学びの機会を提供するため、観光分野やデータサイエンス・AIに係る副専攻制度を導入。
- IRデータ（コロナ禍における学生の退学・休学、成績状況）を学部にデータ提供し、学生への個別指導を依頼。　など

（全学）学位授与方針対応表等に基づく点検・評価

■大学評価専門委員会

IRデータに基づくカリキュラム等の点検・評価

・「大学評価専門委員会」が、すべての学部・研究科の**「ダッシュボード」や「コロナ禍における学部生の退学・休学、成績動向のデータ」**を提供

・学位授与方針対応表及び履修系統図を基に、上記のIRデータを用いて全学的な観点からカリキュラムの自己点検・評価を実施

詳細は後述するが、上記の取組により、全学レベルでアセスメント・ポリシーに掲げている学修成果を可視化し、IRデータに基づくカリキュラムの点検・評価を行うとともに、各学部等の主体的なカリキュラムマネジメントを支援している。

質保証外部評価委員会の取り組み

■ 質保証外部評価委員会による点検・評価

・高等教育の専門家３名による内部質保証システム全般にかかる点検・評価を実施。

・「内部質保証に係る自己点検・評価報告書（＝大学基準協会の様式に準じた報告書）」に基づく点検・評価と意見交換を実施。

・質保証外部評価委員会からの点検・評価結果は、内部質保証を推進する上で多くの示唆を得ており、着実に改善に繋げている。

質保証外部評価委員会からの提言への対応

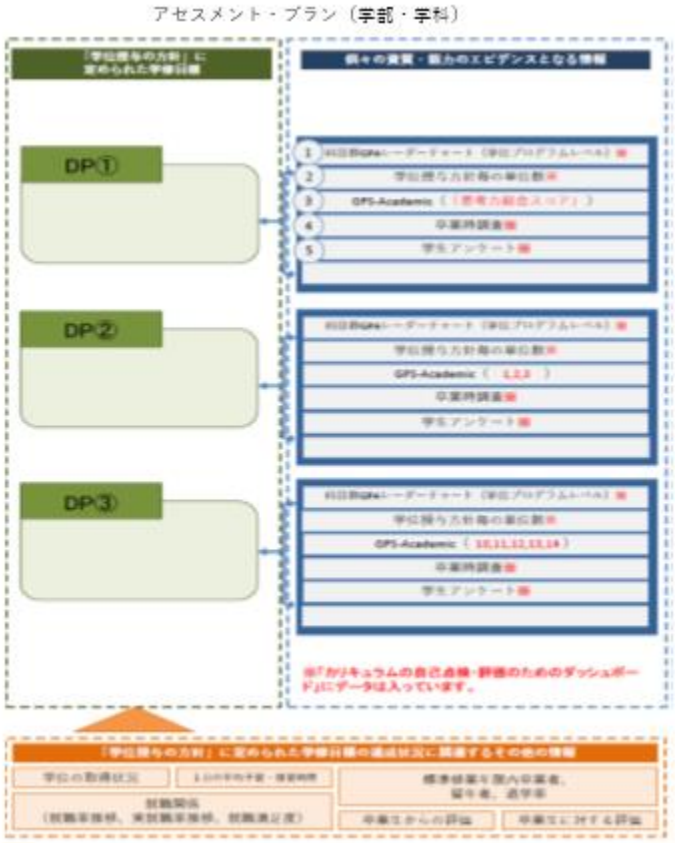
質保証外部評価委員会からの意見・提言については、大学評価委員会が司令塔となり、責任部署を明確にした上で、速やかに改善対応を行なっている。

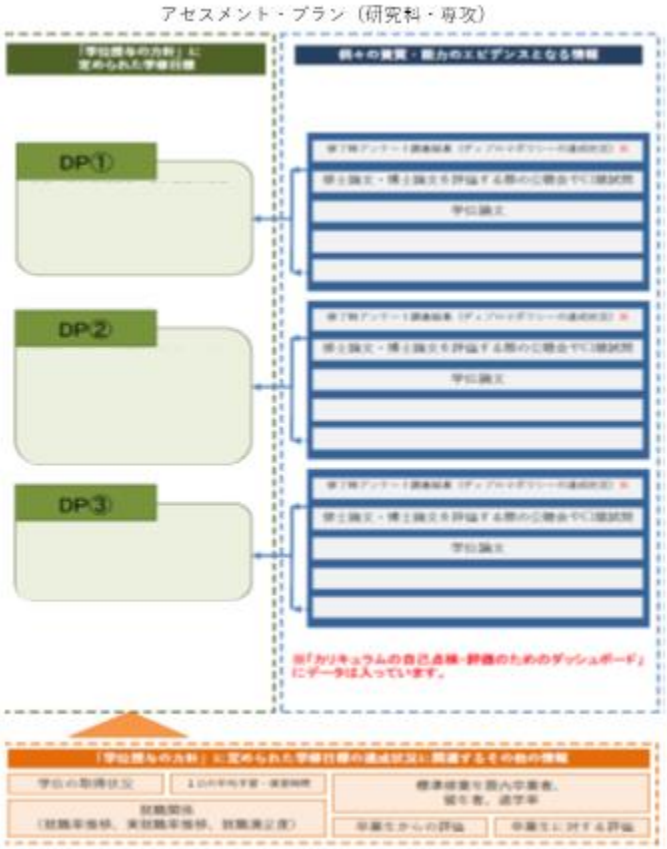
（改善実績）

- ルーブリックに関するFDの実施
- 修士課程の学位授与方針対応表の策定
- 学部の人材養成目的の点検の実行
- 学びのコミュニティ創出支援事業の成果測定
- APと現行入試対応表の作成
- シラバスの記載内容の見直し　等

質保証外部評価委員会からの提言への対応

中央教育審議会「教学マネジメント指針」や質保証外部評価委員会からの提言を受け、2021年にはアセスメントプランを整備し、学修成果の可視化への対応をより明確化している。





質保証外部評価委員会からの点検・評価コメント（一部抜粋）

- 目的を実現するための中長期の計画に相当する**MS-26では、立学の精神にも関わる共有の価値として「生涯学びを楽しむ」を設定し、成果体系図を用いて戦略ロジックを一覧できるように表現している点は優れている**。成果体系図はシンプルに構成されており、計画を策定するだけでなく、戦略計画ごとに成果指標を設定し、実際の指標を整理したファクトブックによって、実際の進捗状況が把握できるように工夫されている。
- **内部質保証の推進体制が、MS-26に基づき、全学レベル、学位プログラムレベル、個人レベルと精緻に組み立てられており、大学版と各部署版を同一のフレームでPDCAサイクルを回すのみならず、大学基準協会の大学基準とも一体化して進められている点が特に優れています。**
- **「学びのコミュニティ創出支援授業」や「Enjoy Learningプロジェクト」、「名城大学チャレンジ支援プログラム」など非常に特色のある取組が述べられ、MS-26の具現化に資すると思われる。**
- 内部質保証システムとしてここまで整備されている大学を見たことがなく、先進的な取組として評価できる。

２．学修成果測定の取り組み、成果

アセスメントポリシーを踏まえたダッシュボードの作成

名城大学アセスメント・ポリシー（機関レベル）

大学及び学科レベルでは、ディプロマ・ポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。卒業研究については、各学部が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、大学及び学科レベルでは、その集計値で評価する。

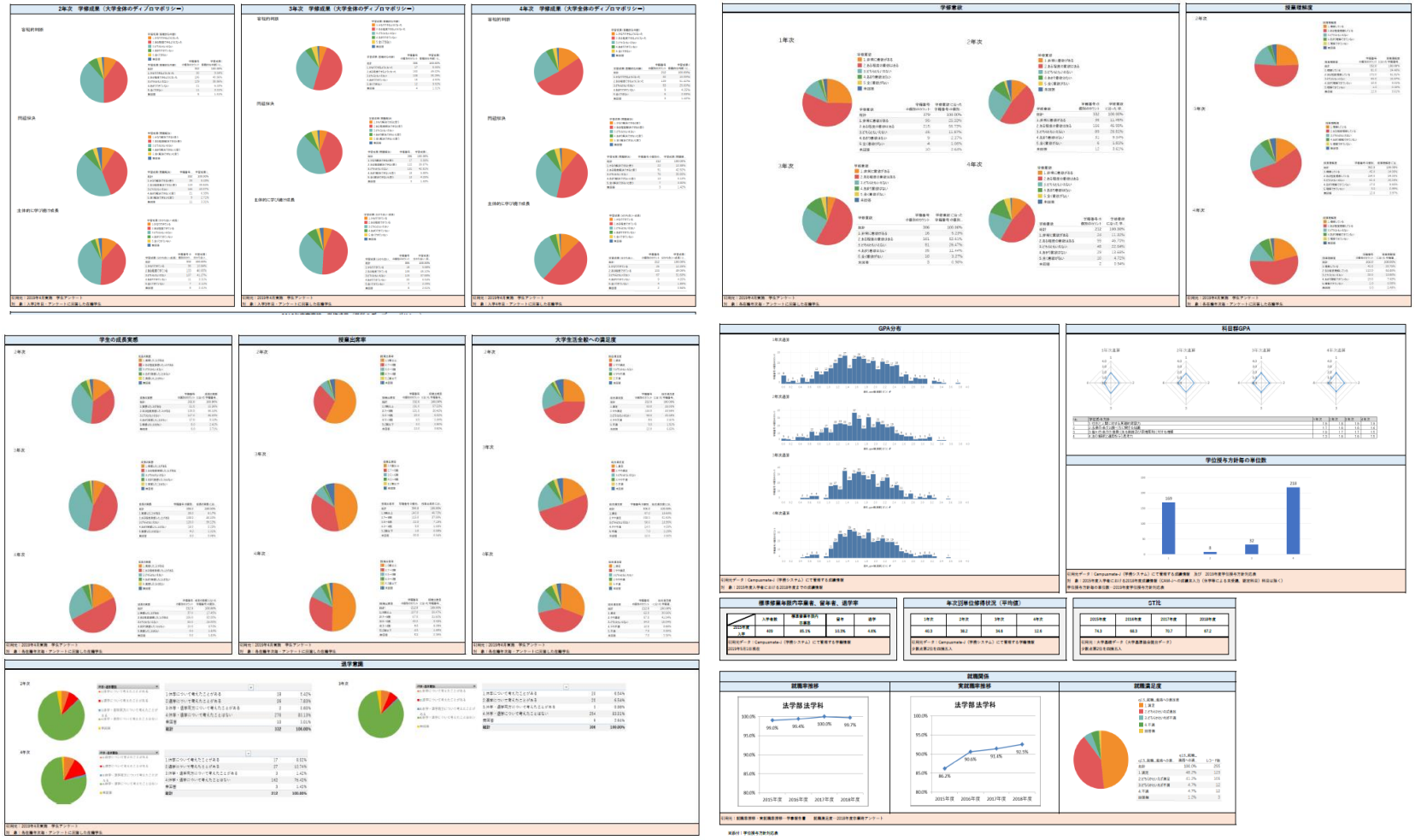
アセスメントポリシーを踏まえ、ダッシュボードにて提示する情報を以下のとおり整理

学修成果のアセスメント・ツール	可視化方法	集計方法
ディプロマ・ポリシーの科目群ごとのGPAの数値	レーダーチャート	Excel
年次別単位取得状況	年次毎の値（平均）	Excel（学務センター作成）
卒業時アンケート（学科のDPの達成状況）	円グラフ	統合データベース
卒業時アンケート（就職満足度）	円グラフ	統合データベース
学生アンケート（全学のDPの達成状況）	円グラフ	統合データベース
学生アンケート（学修意欲）※2019年度から調査実施	円グラフ	統合データベース
学生アンケート（授業理解度）	円グラフ	統合データベース
学生アンケート（平均予習・復習時間/日）	円グラフ	統合データベース
学生アンケート（成長実感）	円グラフ	統合データベース
学生アンケート（授業出席率）	円グラフ	統合データベース
学生アンケート（大学生活全般への満足度）	円グラフ	統合データベース
学生アンケート（退学意識）	円グラフ	統合データベース
成績評価（GPAの分布図）	ヒストグラム	統合データベース
標準修業年限内卒業率・留年率・退学率	数値データ	Excel（学務センター作成）
ST比	数値データ	Excel
就職率・実就職率	折れ線グラフ	Excel

大学全体・学部・学科別に共通のフォーマットにて情報を可視化

ダッシュボードの作成例

サンプル（データはダミー）



ダッシュボードによる改善事例

■ Ａ学部のカリキュラム改正

・ダッシュボードを活用したエビデンスベースの議論
・ＤＰの達成度において３、４年次に比較して１、２年次に課題あり
・ＤＰの内、「社会における諸課題の解決にかかわるＤＰ」の達成度に課題あり

≪カリキュラム改正内容≫

１．既存の科目の内容と配当年次の見直し

２．「学びのコミュニティ創出支援事業」におけるPBL型の課外活動を正課授業へ取り込み

３．本学の特色ある取り組み

認証評価結果　長所①

- 大学の中・長期的な基本戦略である 「MS-26戦略プラン」 は、多様な経験の場の創出に 全教職員が一丸となって取り組むことで、「学びのコミュニティ」を創り広げるなど、「名城らしさ」を追求した基本戦略となっている。これに基づき学内で課題解決型学習の導入に関する取り組みを募集・採択し、予算化する 「学びのコミュニティ創出支援事業」 や、正課外での学生の主体的な学びを支援する「Enjoy Learningプロジェクト」 、合宿や海外派遣・特別講義を通じてリーダーシップの養成を図る「名城大学チャレンジ支援プログラム」 を展開することで、中・長期計画の実現に取り組んでいることは評価できる。
- 「大学評価専門委員会」にて学位授与方針に示した学習成果の達成度をレーダーチャート等により 可視化し、それらの情報を「カリキュラムの自己点検・評価のためのダッシュボード」に学部・研究科ごとに一元的に管理している。各学部・研究科ではこれを活用してデータに基づく自己点検・評価を行い、例えば都市情報学部では2023（令和５）年度のカリキュラム改正につながるなど、学習成果の可視化及び教育改善に活用していることは評価できる。

認証評価結果　長所②

- 第三者評価を行う「質保証外部評価委員会」の設置のみならず、自己点検・評価や教育改善に関するデータの企画・収集に取り組む各種委員会・ワーキンググループに学外からの委員を含めており、外部有識者の意見を反映した内部質保証に努めている。これによって成績評価の全学基準の策定やシラバスの第三者チェック方法の改善を図っている。このように学外の視点を取り入れ、客観性・妥当性の向上に取り組み、内部質保証の有効性を高めていることは評価できる。
- 「光デバイス研究センター」 及び 「ナノマテリアル研究センター」 を補助金事業終了後も事業継続を承認し、両センターは高度な研究成果を社会還元しているほか、「光デバイス研究センター」については、年次の異なる学生がチームを形成して、主体的に高度な実験設備を用いた研究の実施などにつながっている。さらに、「クリニカルオミクスを基盤とするトランスレーショナルリサーチセンター」において、分野横断型分野横断型の研究を促進するなど、大学の強みとなる専門分野の研究を促進する特長的な教育研究組織を設置・維持していることは大学のブランディング及び教育研究の向上に資する取り組みとして評価できる。

認証評価結果　長所③

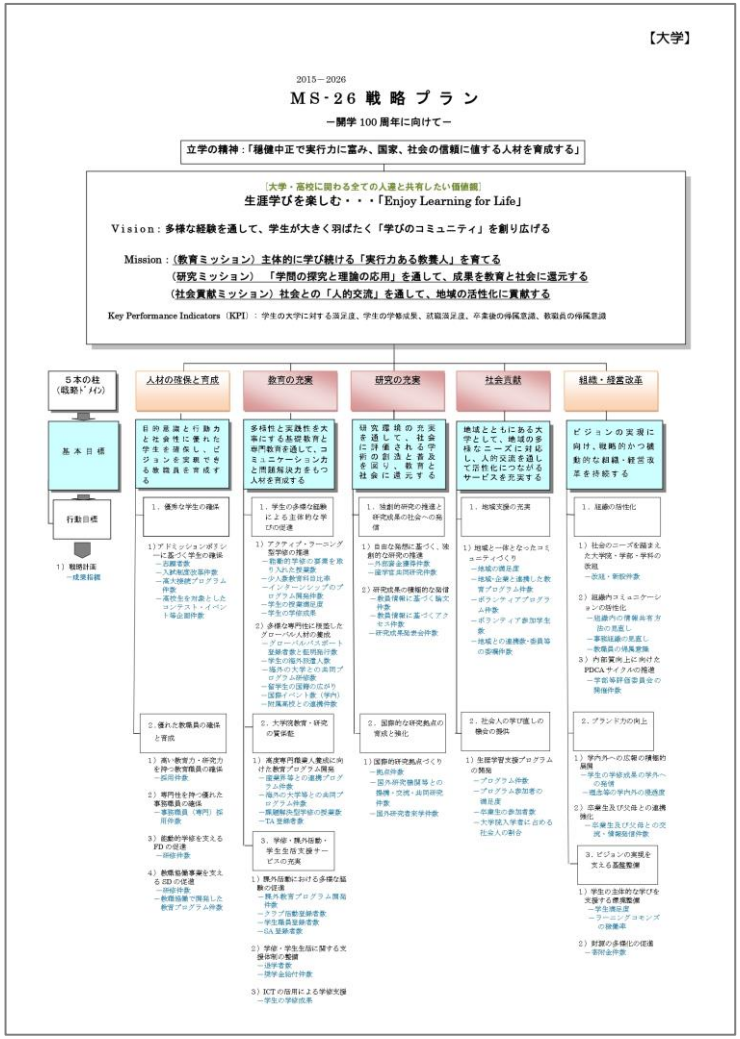
- 2020年度に他大学に先駆けて研究シーズのオンライン展示会「名城大学バーチャルリサーチフェア2020」を開催し、教員と企業等とのマッチングにより受託研究・共同研究の実施、奨学寄付金等の獲得に結び付いている。新型コロナウイルス感染症拡大の環境下でもオンラインを活用した新たな研究促進・支援策を展開し、「MS26戦略プラン」に掲げたミッションの実現及び大学のブランディング強化に寄与していることは評価できる。
- 「MS26戦略プラン」を実現するため、大学と産業界・自治体との交流の場として中京圏初のオープンスペース「shake」を開設し、これを拠点に行政や企業との多数の連携事業を展開し、学生が学外での企画・運営に携わるほか、講師として参画するなどしている。また、３Dプリンター等の最新設備を有する「MSTUDIO」を設け、学生が分野を超えて交流し、自主性を伸ばす場を提供して、アントレプレナーシップ教育を推進している。これらの創造的課題解決につながる環境整備により、社会への貢献を教育と一体となって推進しており、評価できる。

本学の特色ある取り組み①

■MS-26 - Meijo Strategy 2026
（MS-26戦略プラン）

（OUR VALUE）
「生涯学びを楽しむ」

（OUR VISION）
多様な経験を通して、
学生が大きく羽ばたく
「学びのコミュニティ」
を創り広げる



本学の特色ある取り組み②

■学びのコミュニティ創出支援事業　※正課授業中心

・学生の能動的学修や課題解決型学修を支援

・2015年度から実施

・ビジョンに沿った取り組みに対する予算支援
2022年度実績：107取組を支援

・写真・映像等を含めた報告書の提出義務

・申請書の作成によるビジョン・価値観への意味づけ

・2021年度から、事業活性化及び効果検証を目的に、
取組への参加学生を対象とするアンケートを実施
2022年度集計結果：参加取組に対する満足度　99.6％
（「満足」もしくは「どちらかといえば満足」の合計）

本学の特色ある取り組み③

■Enjoy Learningプロジェクト(通称　：Eプロ)　※正課外活動

・学生グループ（４名以上）による学びの活動の活性化を図る。

・2016年度から実施

・1グループにつき上限30万円の予算措置
2022年度実績：13件

【2022年度採択プロジェクト】
〇有松ミチアカリ～繋がりの灯～
〇SDGｓを自分ごとに 大学生×SDGｓプロジェクト
〇岩手県陸前高田市復興支援・応援プロジェクト など

・Eプロ参加学生の「大学生活全般への満足度」「成長実感」「本学好感度」は、一般学生等に比べて肯定的な回答割合が高かった。

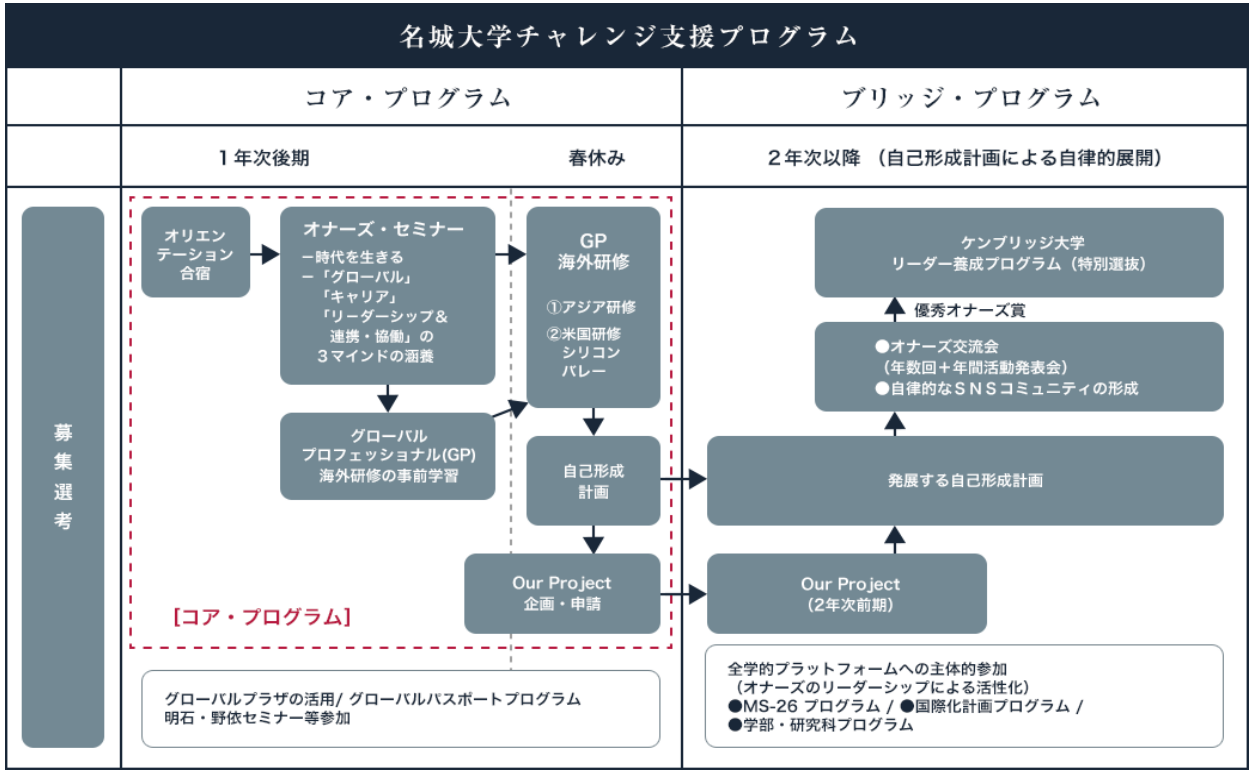
本学の特色ある取り組み④

■名城大学チャレンジ支援プログラム（オナーズ・プログラム）

・スーパーバイザー　池上彰教授

・学部横断型選抜プログラム

・主に1年次生を対象とし、前期試験の結果をもとに全学部から30名程度を選抜



４．大学評価の申請、実地調査等に向けた準備

申請前年度から申請年度にかけてのスケジュール

時期	実行内容
2021年5月	大学基準協会ホームページで、認証評価受審大学の評価結果把握（他大学への指摘事項の傾向や、本学で対応漏れの項目はないかの確認）
2021年9月～	事務局で自己点検・評価報告書の原案（第一次案）作成
2021年11月上旬	大学評価専門委員会ＷＧで原案（第一次案）のブラシュアップ
2021年11月中旬	自己点検・評価報告書に基づく点検・評価（大学評価委員会、大学評価専門委員会）
2021年11月下旬～	各部局への自己点検・評価報告書の確認依頼（事実誤認など）
2022年2～3月	各部署からの修正を反映、根拠資料の整備、数値データを最新に更新
2022年4月	申請

自己点検・評価報告書の作成・根拠資料の準備

・大学基準協会に提出する自己点検・評価報告書は、各部局から毎年度末に提出される「自己点検・評価報告書（部署版）」を基に各部局の活動を把握し、全学的な観点で所管の事務局が原案を作成。

・原案について「大学評価専門委員会WG」においてブラッシュアップ。

・各部署から毎年、年度末に提出される「自己点検・評価報告書（部署版）」に各事業の実行に対する根拠資料の添付を義務付けており、大学基準協会に提出する根拠資料は、それらの資料からピックアップすることで、二重に根拠資料を収集する負担を軽減している。

実地調査に向けた準備について

大学基準協会から実地調査1か月半前に、すでに提出した自己点検・報告書及び提出資料に基づいた質問事項、全体及び個別面談、当日のスケジュール等の詳細が示された。

（1）質問事項への回答

自己点検・報告書及び提出資料では説明しきれなかった箇所について、約70の質問があり、1か月の期限で改めて資料を提示して説明した。

（2）面談の準備

教職員への個別面談3件（計19名）、学生へのインタビュー1件（計5名）
大学基準協会から示された要件に合う学生を授業に支障のないよう選出した。

（3）施設見学の準備

2件の施設見学（研究施設）の希望があったが、時間の都合上、1件を30分で見学いただいた。施設を管理している教員は何度も施設見学の案内をしており、特段追加の負担なく対応ができた。

（4）実地調査会場（大学内）の準備

評価者控室、全体面談会場、個別面談会場すべてにWi-Fi環境を整備し、万が一の新型コロナウィルス感染症対応のため遠隔会議システムを整えた。

（5）当日のスケジュールの調整

教学執行部については実地調査日程が確定した3か月前から終日予定を抑えていたため、個別面談・施設見学を担当する教職員及び学生の日程調整のみであった。

５．今後に向けて

今後に向けて

１．内部質保証体制のさらなる強化

（短期）第４期認証評価を見据えた内部質保証の更なる強化。

（中期）開学１００周年に向け、ポストMS-26戦略プランを策定するプロセスの中での内部質保証体制の強化。

２．IRデータの質向上

カリキュラム改正等の教育改善を適切に実行するため、ダッシュボード等のIRデータについては各学部・研究科のニーズを聞きながら、より精度・質を高めていく。

３．評価活動の省力化

評価疲れを起こすことがないよう、質保証外部評価委員会等の頻度については、適切な時期に開催するよう頻度を見直していく。

まとめ

- 「ビジョン」の実現という戦略プランを軸にした内部質保証の取り組み（「MS-26戦略プラン」と「内部質保証に係る自己点検・評価」の2つのPDCA サイクルを一体化）

- ダッシュボード（学修成果の可視化）等のＩＲデータの活用、複層的な外部評価の実施等により、具体的なカリキュラム改正に繋げている。（重要なのは学部等の主体的なカリキュラムマネジメント）

- 大学評価専門委員会の下のWG（教職協働）が企画機能を果たしている（総合企画部と大学教育開発センターとによる部署横断的な対応含む）。

ご清聴ありがとうございました。

連絡先：鶴田　弘樹　<tsuruta@ccmails.meijo-u.ac.jp>